



げんきな子 がんばる子 やさしい子

園だより

7月号

 北区立さくらだこども園
 園長 西澤尚子

夢中になって遊ぶ

今年は6月の内に梅雨が明け、観測史上初めてと言われる6月中の連続猛暑日もあり、すでに夏本番と感じます。後、約2週間で、こども園も夏季保育期間となります。

コロナ感染症の影響はまだ続いているところではありますが、少しずつ人と関わることの楽しみが戻ってきたように思います。久しぶりに友達や親戚に会うとそれだけでうれしく、笑顔になります。会えない期間があったので、会えるありがたさ、うれしさがより強く感じられます。

今年度、さくらだこども園では「夢中になって遊ぶ子どもを育てる」を主題として園内研究を進めています。昨年度の学校ファミリーでの研究で学んだことを基に、子どもたちが夢中になって遊べる園生活が送れるようにと、保育者は毎日考えています。遊ぶというのは、自分で目的、したいことを見付け、いろいろ考え試行錯誤しながら何度も繰り返し取り組むことです。周りに保育者や友達がいると刺激や影響を受けたり、自分の楽しさを伝えたくなくなったりして、より夢中になって遊び続けます。

色水遊びで、色が出る紙を枚数や色の組み合わせ、水の量を変えて何度も何度も作る4歳児の姿があります。友達の作ったものを見て「どうやったの?」と聞いたり、聞かなくてもじーっと眺めて自分でまねしてみたりもしています。色が出ておもしろい!と思い、こんな色になった!と驚き、あんな色を自分でも作ってみたい!と繰り返し試してみる…。こんな姿を「夢中になって遊んでいる」と捉えています。

水着を着てのプール・水遊びが始まり、子どもたちは全身で水を感じて遊んでいます。その中に水鉄砲で的を倒すために、押す早さや当てる向きを工夫しながら何度も的に向かう5歳児の姿がありました。的が倒れたときの満足げな表情は、したかったことを成し遂げた喜びにあふれています。

子どもたちは楽しいと思うと繰り返し遊びます。同じことを繰り返しているように見えても、その中に工夫や新たな思いがあります。自分の楽しい!を見付け、何度でもしてみる気持ちは、これからの予測のしがたい時代に生きていく子どもたちに必要な力だと思っています。そして、人との関わりに楽しさを感じていると、自分が夢中になれるように周りの人も夢中になれるものがある、そのことを大事にしたい、と思える人になるのではないかと考えています。

今年の夏は、昨年よりは直接体験できることが増えるでしょうか。大人も子どもたちと一緒に夢中になって遊ぶ、楽しい時間がもてるといいですね。健康にはどうぞ、ご留意ください。

—今月の指導のめあて—

〈3歳児〉・着替えや所持品の始末などを、保育者に見守られながら自分でする。

- ・保育者や友達と過ごす中で、自分のしたい遊びを十分に楽しむ。
- ・水に触れて遊ぶ楽しさや心地よさを感じる。

〈4歳児〉・友達や保育者と一緒に様々な水遊びやプールでの遊びを楽しみ、心地よさや面白さを感じる。

- ・着替えや水分補給など夏の生活に必要なことに気付き、自分から取り組もうとする。
- ・夏の自然に興味や関心をもったり、栽培物の生長や収穫を喜んだりする。

〈5歳児〉・自分の思いや考えを伝えたり、相手の思いにも耳を傾けたりしながら、友達と一緒に遊びを進める楽しさを感じる。

- ・自分の思いやイメージを実現するために、考えたことを試したり、工夫したりすることを楽しむ。
- ・水の感触の気持ちよさを感じ、水の中でいろいろな動きを楽しみながら、水の特性に気付いたり、興味をもったことを試したりする。

<お願い>

正門を出るときは必ずお子さんと手を繋ぎ、歩道や自転車のそばまで一緒に行くようにしましょう。

正門前の道路は自転車やバイクの通る道です。お子さんが急に飛び出すと大きな事故になることも考えられます。交通ルールを知らせる機会にもなります。

